

漢詩を書く(7)

締切り 十二月二十一日(必着)

春夜洛城聞笛 李白
 谁家玉笛暗飛聲
 散入春風滿洛城
 此夜曲中聞折柳
 何人不起故園情

奥村憲照先生書

◎「漢詩を書く」シリーズの最終です。集中して頑張ってください。

◎まずは、用紙に対してのバランス、行間・字間、行の中心などを整えて書くことが大切です。

◎作品の最後に、落款(名前)を入れましょう。

春夜 洛城に笛を聞く 李白

誰が家の玉笛ぞ 暗に声を飛ばす

散じて春風に入りて 洛城に満つ

此の夜 曲中 折柳を聞く

何人か故園の情を起こさざらん

誰の家の玉笛だろうか。暗い夜のどこかで笛の音を飛ばしている。四方に散り春風にのって洛陽城中にひびきわたる。

こんな夜、曲の中に折楊柳のしらべを聞けば、だれが故郷をなつかしむ気もちをよび起こさずにいられよう。

□作品の出し方

▼硬筆部ⅡB5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)

▼毛筆部Ⅱ半紙に書いて下さい。筆ペンも可です。

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

下にそる

意

味

太

抵

責

だんだん広く
恐

▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。
〔間架結構法〕 間架とは点画と点画の間のこと、結構は形のとり方、文字の組み立てをいう。

自由は責任を意味する
だから大抵の人は
自由を恐れる

おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕

右あがりに長く

長

命

さいわ(い)

福

貝

原

益

軒

〔貝原益軒〕をやや小さく書く

	大	長
	い	命
	な	な
貝	る	る
原	福	ほ
益	い	ど
軒	な	
	し	

おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★長命：（書体Ⅱ行書）

貝原益軒（二六〇～二七四）

江戸前期の儒学者

著書『養生訓』より

益軒は病弱であったがゆえに健康に留意して、八十四歳の天寿を全うしました。有名な『養生訓』は、亡くなる前年の刊行で、心身ともに健康で理想的な人生を送ったと言えるでしょう。健康で長生きはいつの時代も万人の理想とするところです。

◆1月課題予告（楷書）

大胆に

行うことが

成功の秘訣だ

★自由は：（書体Ⅱ楷書）

バーナード・ショー（一八五〇～一九〇〇）

イギリスの劇作家

他人や規則にしばられず、勝手気ままに振る舞うことを自由だと勘違いしている人がいます。自由と責任は表裏一体のもの。自分の行動に対してすべて責任を持たなければなりません。それが容易ではないことを理解している人は、むしろ自由を恐れるのです。

◆1月課題予告（行書）

沈黙は会話の中の

一つの偉大な

技術である

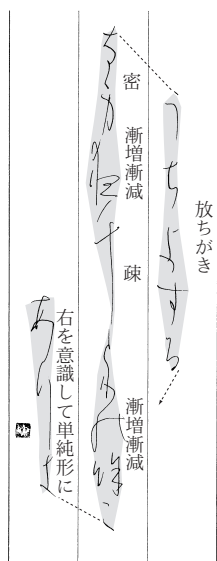
▼教範・書範Ⅱ楷書

▼師範Ⅱ行草または草書

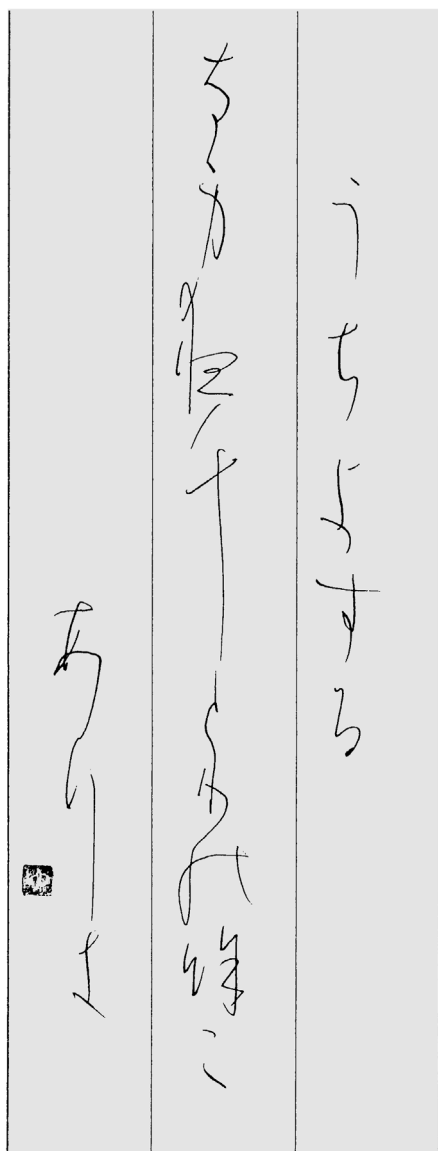
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



打ち
奈身夜
と利能餘
支

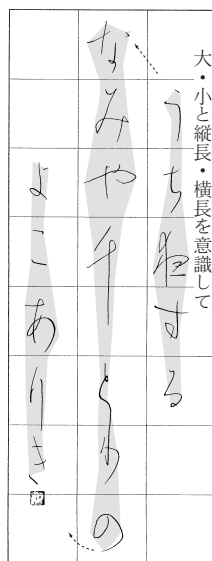


おぎ 荻 田 蒼 仙 書

▷用具=自由(黒色に限る)

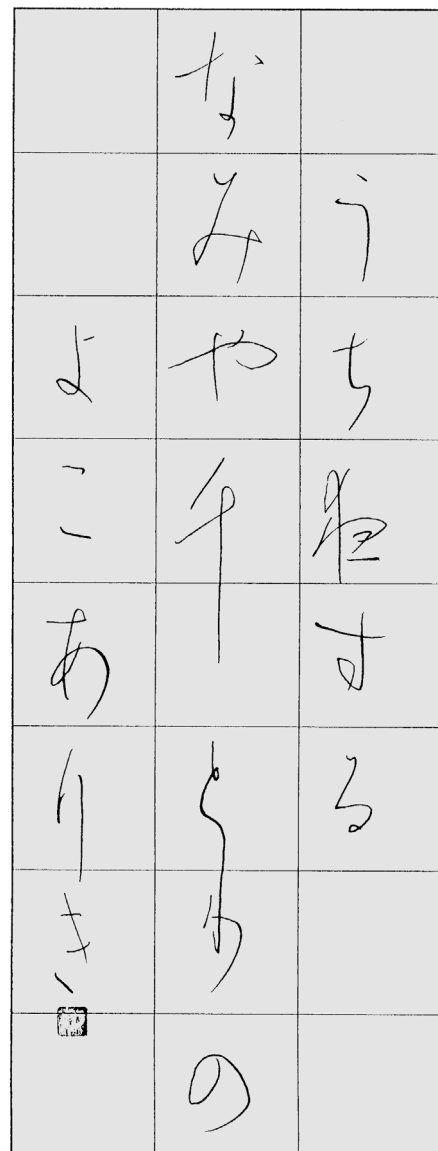
▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



打ち
奈身夜
と利能餘
支

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。



おぎ 荻 田 蒼 仙 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

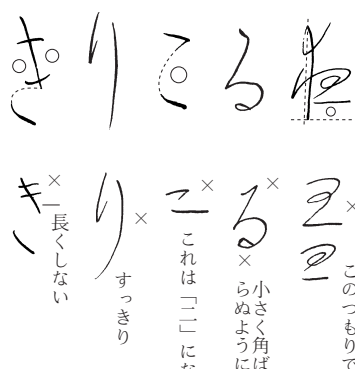
◆1月課題予告

ほうらいの山まつりせむ老の春

(蕪村)

〔段位ワン・ヒント〕

放ち書き・連綿・中心移動・反動法・疎密・あたり等入れております。どの部分がそれか見つけて下さい。連綿は一气につづけて書くようにお考えの方もあるようですが、一字の終わりの画で休み一息ついて、勢いが落ちないようにして一画に次の一画へ移ります。この場合右にまわる曲線はゆっくりとおらかに運筆します。休むところでは、左手で紙を上や下に移動させて書き易い場所になります。連綿線は実画と同じ強さです。この連綿の要領は漢字作品の場合も同様です。



事になるのです。

〔句意〕浪のうちよせる磯辺を、千鳥が風に吹かれて横歩きして遊ぶさま。

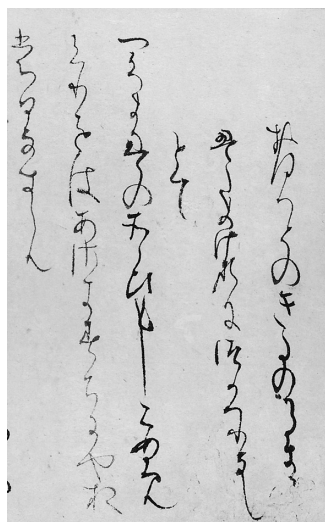
〔級位ワン・ヒント〕

殆ど放ち書きですが、離れていても気脈は通じていなければいけません。(墨つぎは別) 大小・形を心しながらリズムカルに運筆して下さい。多く書いて線と形を追求して下さい。この作業は大きく成長するための底辺を広げる事になるのです。

打ち
奈身夜
と利能餘
支

〔古筆参考〕

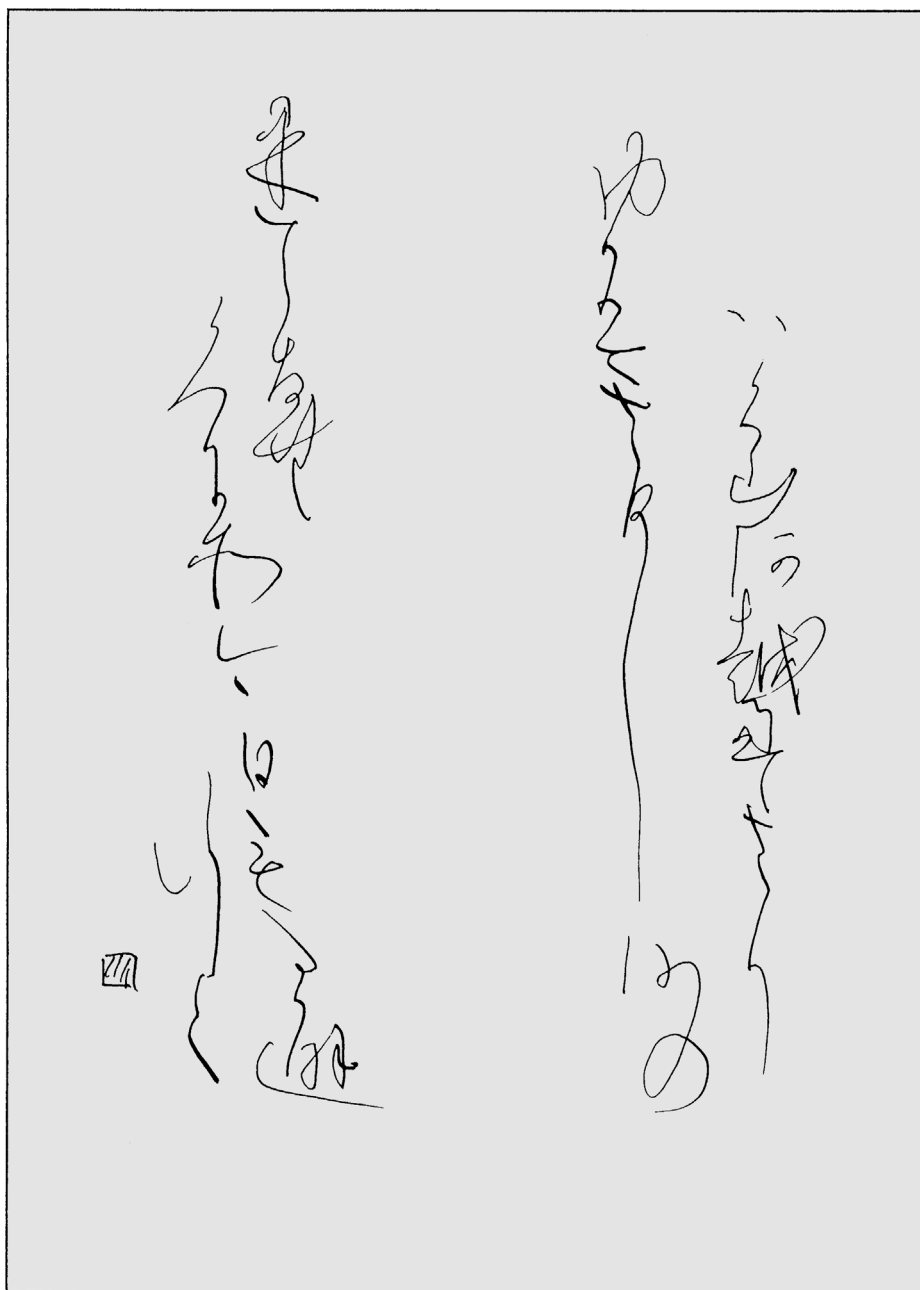
一条摂政集



おほむとの、きたのかたきこ
えたまけるに、御かへりなし
とて
つくまへのそこひもしらぬみ
くりをばあさきすぢにやお
もひなすらむ

締切り 十二月二十一日（必着）

築瀬舟香書

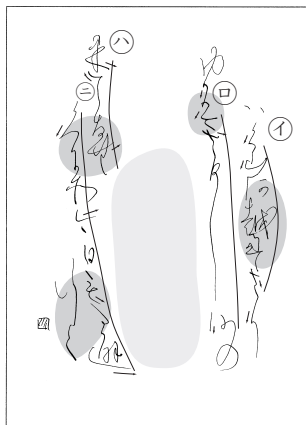


幾山河越えさり行かば寂しさの
終てなむ国ぞ今日も旅ゆく

〔歌意〕 一体いくつの山や河を越え続けて行ったら、寂しさが果てる国があるのだろうか。そのようなところはないのかもしれない。それでも私は、今日も旅を続けて行く。

〔出典〕 名歌即訳 若山牧水

〔解説〕



- ①と②、③と④、⑤と⑥、⑦と⑧、それぞれ呼応。
- 一行の中の疎密、墨の動きに注意。
- 大きな間・余白を作る。
- 方向は余白に向かっていく。

集団性と面構成

一条摂政集の中の疎や密の部分はそれぞれが動いている様に見えます。

作品が美しく見える要素は運ペンのリズム・行の疎密・余白（間）の美しさ、それらが相俟って作品の中に遠景・近景が出来日本人の美意識をそそののだと思います。一年間作品作りのテクニックを一条摂政集から学びました。

◆1月課題予告

裏じろの山草の葉を掛けたれば
柱もものを云ふ心地する

（与謝野晶子）

締切り 12月21日(必着)

新春のお慶びを申し上げます
清々しい新年を迎えられた
こと、存じます。ご一家皆様にとりまして幸多い年であり
ますようにお祈りいたします
平成二十二年元旦

自由課題

- ◆ 今月は、文章も自由といたします。
- ◆ 皆さんのアイディアを生かして自由
に創作して下さい。
- ◆ バラエティに富んだ、個性豊かな
年賀状をお待ちしています。
- ◆ 五十三ページの憲照先生のお手本
も参考にして下さい。

新春のお慶びを申し上げます
清々しい新年を迎えられた
こと、存じます。ご一家皆様に
とります幸多い年であり
ますようにお祈りいたします
平成二十二年元旦

横 書 き 課 題

おか じま けい せん
岡 嶋 桂 川 書

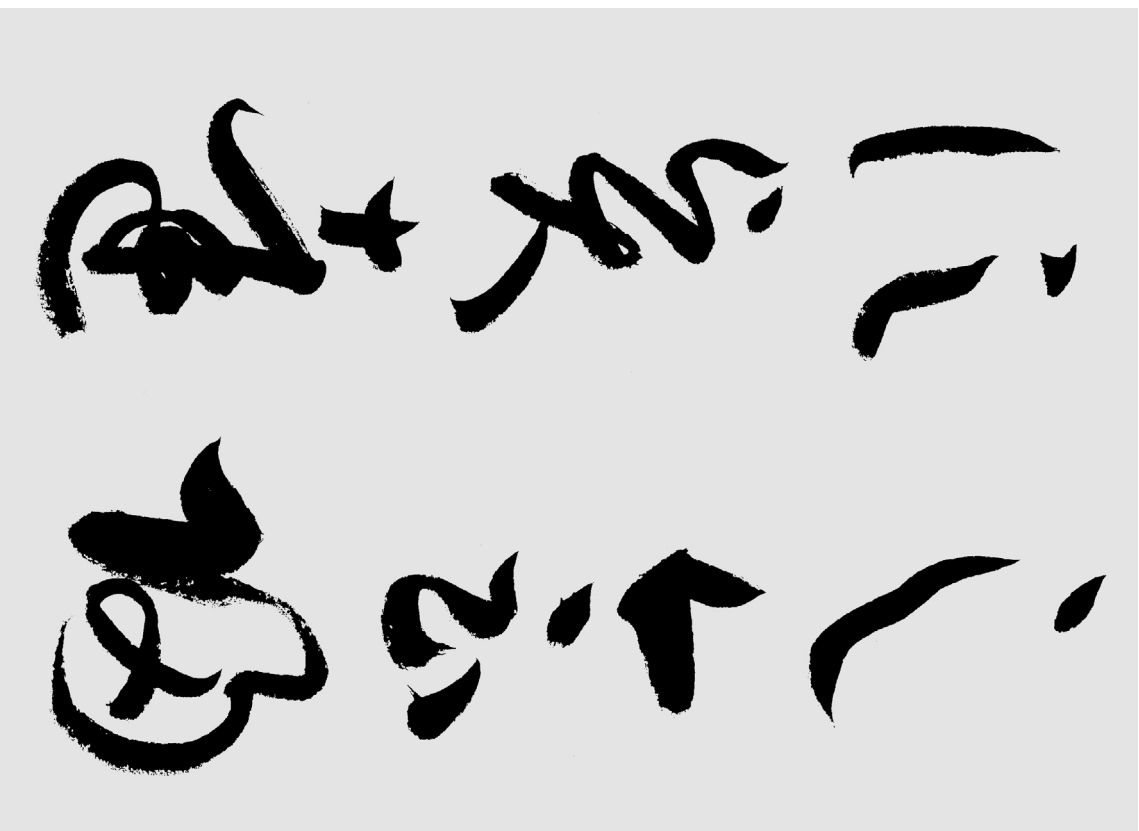
マンモスは更新世に北半球に生息
した、巨大な哺乳動物である。

兵庫県神戸市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 12月21日 (必着)



【出典】書譜 (687) 【筆者】孫過庭 (648?~703?)
 【読み】 (固に義理) の会帰にして、信に賢達

準初段から師範まで

奥村暢之臨
 おくむらのぶゆき



新入から1級まで (行書)

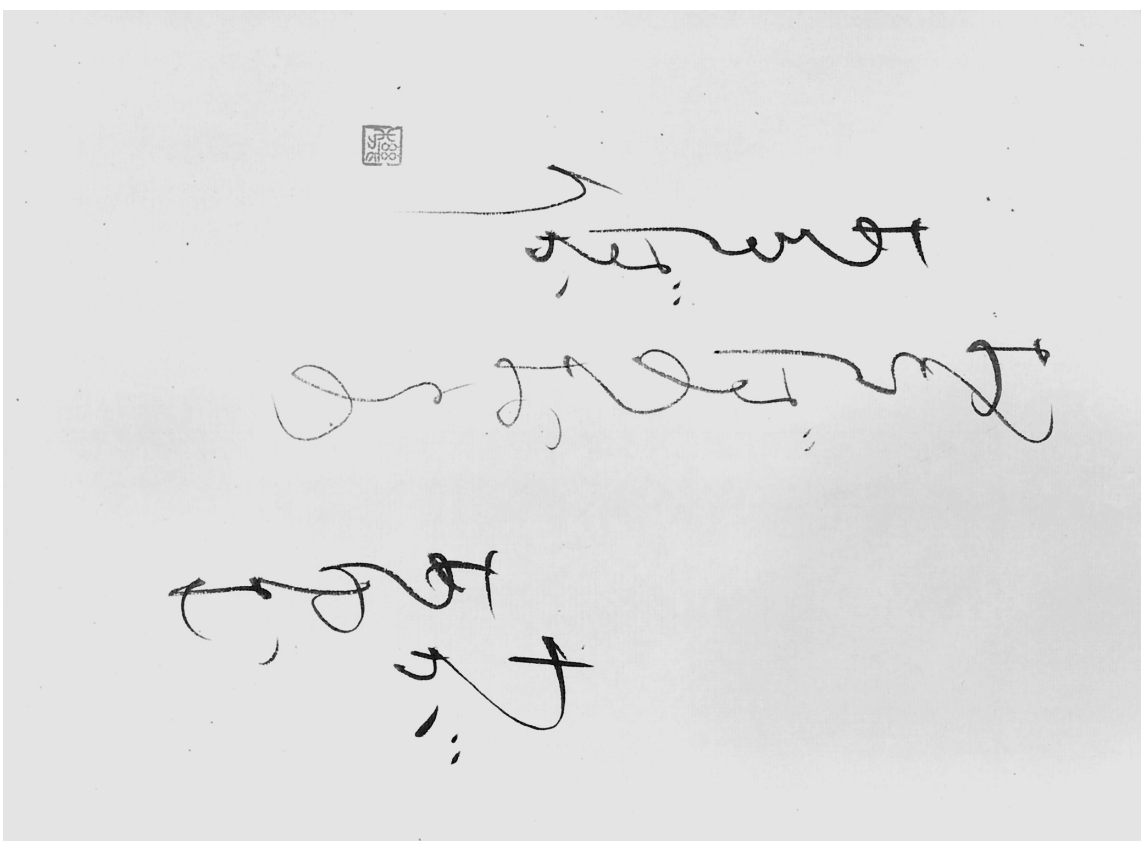
澤静雨書
 さわせいう

【読み】歲月人を待たず。
 【大意】やるべき時にやっておかないと時の流れは人を待ってはくれない。

一般部毛筆かな課題

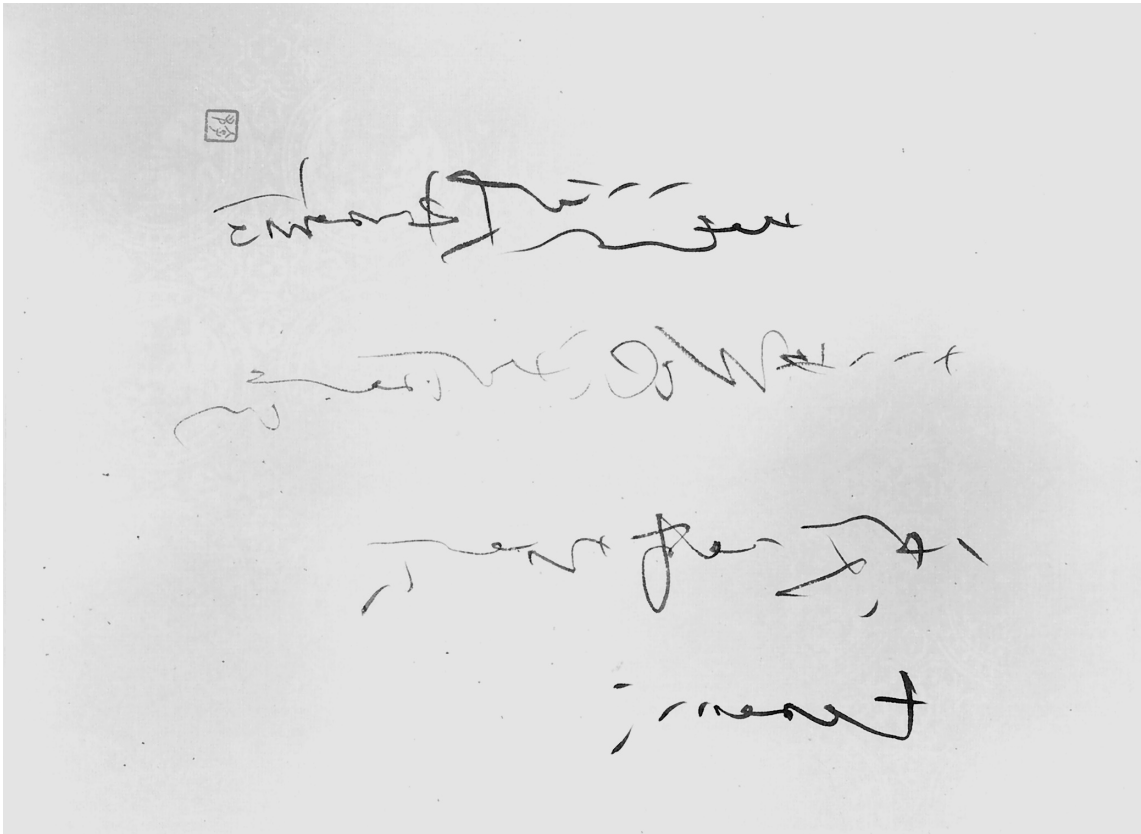
締切り 12月21日 (必着)

新入から1級まで



浅井機山先生書

準初段から師範まで



■画課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。

※検定試験1級コースを兼ねる。

わが歩む落葉の音のあるばかり

※検定試験三段、教範コースを兼ねる。

わかかげは千代に八千代にさざれ石の
厳となりて苔のむすまで

〔出典〕古今和歌集 読人しらず

〔歌意〕わが君は、千年も八千年も、かぎりなく長寿であられるように。

小石が大きな岩に成長し、その上に苔の生えるときまで。

〔出典〕杉田久女

〔句意〕冬の山路を一人行くと、聞こえてくるものは落葉を踏む音ばかりだ。

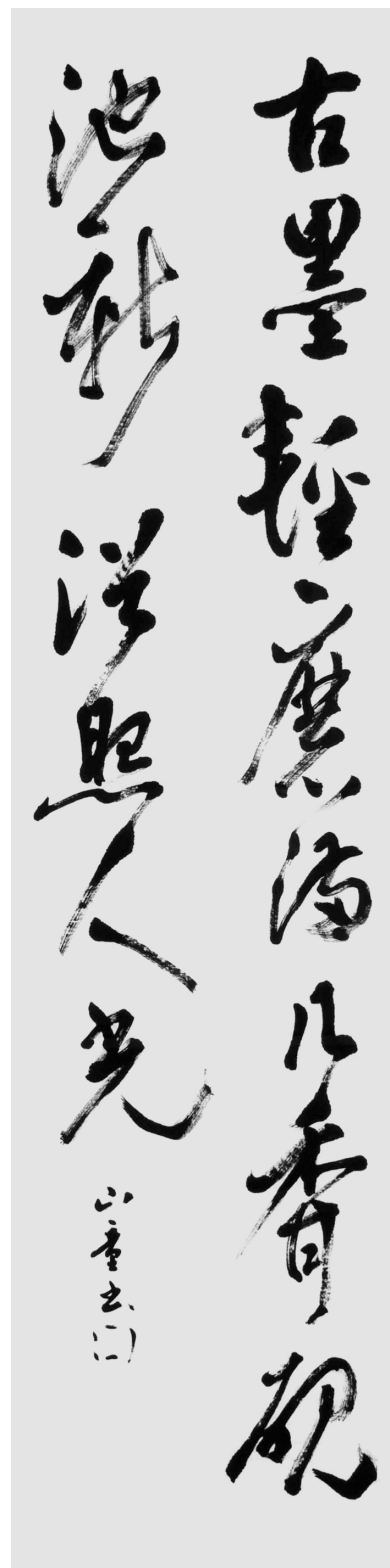
りだ。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 十二月二十一日（必着） 半切（一三六cm×三五cm）

新井清泉先生書



〔大意〕古代の墨を心静かにすれば机上に香りが満ちて硯池は新たに浴したように光って人をてらす。初出品の方へ
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

古墨輕磨満几香硯
池新浴照人光
趙子昂

〔条幅解説〕創作への展開（角川書道字典より）

〔古典字例〕



師走も早旬日を余すのみとなり
ました今年もお決まりの忘年会
を開催しますので必ず出席のこと
専属ヘルパーさん同伴も可です
（ご自分の氏名）

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新入から師範まで、どなたでも出書できます。

■ 成績（天位〜5等）は、評価により毎月変わります。

■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

師走も早旬日を余すのみとなり
ました今年もお決まりの忘年会
と併催しますので必ず出席のこと
専属ヘルパーさん同伴も可です

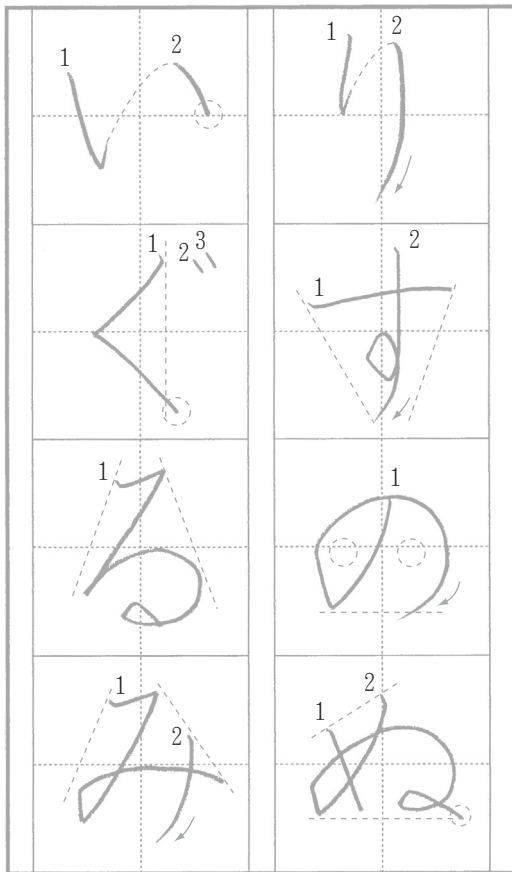
森 恵子

おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆

半紙（334mm×240mm）

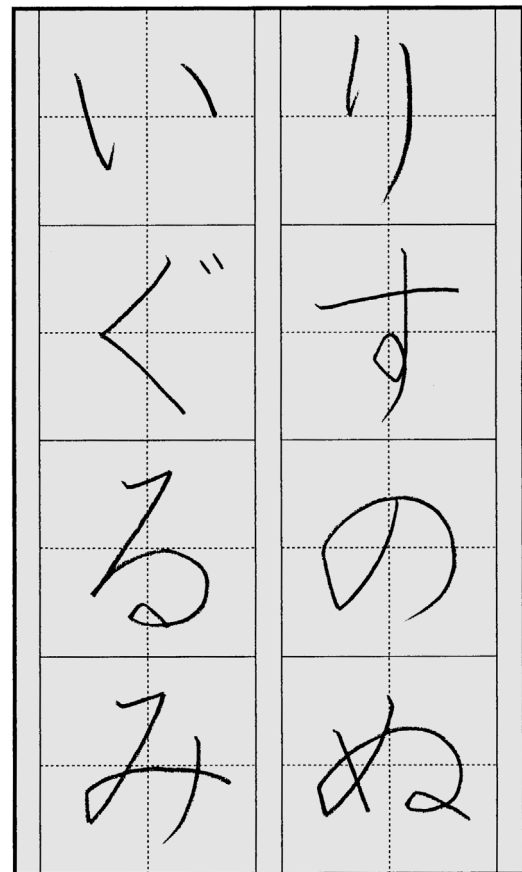
※検定試験三段コースを兼ねる

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)



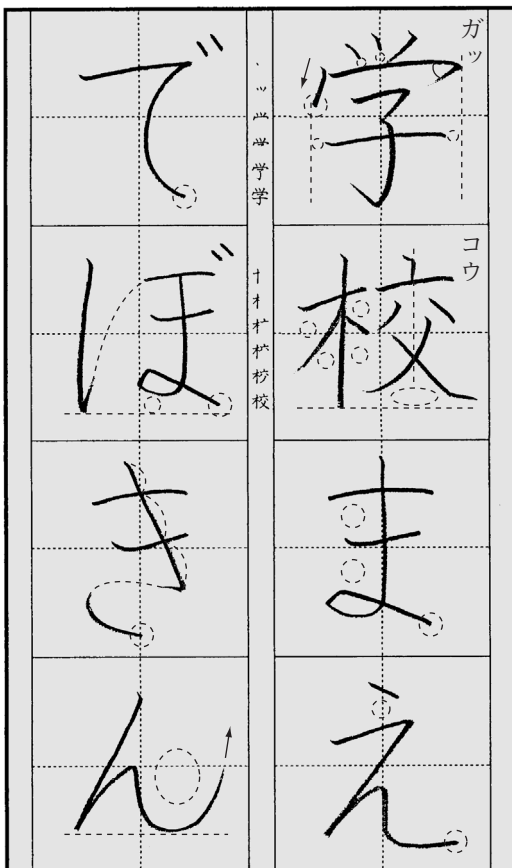
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ
う
年

小三年まで
三宅容玉書



新入1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

雪	友
合	だ
せ	ち
ん	と

新入1級

せ	だ	昼
ん	ち	休
し	と	み
よ	雪	は
う	合	友

準初段以上

小 二 年

準初段以上

旅	冬
す	の
る	空
鳥	を

新入1級

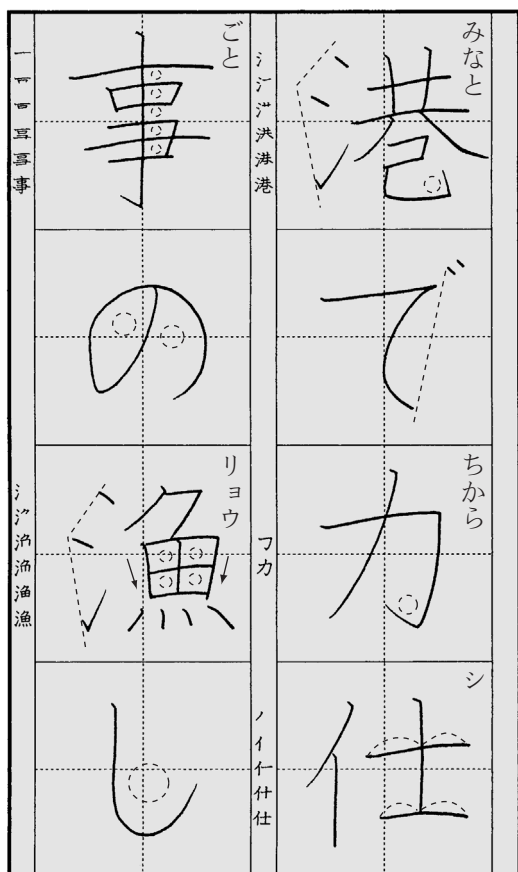
る	の	列
わ	空	に
た	を	な
り	旅	り
鳥	す	冬

準初段以上

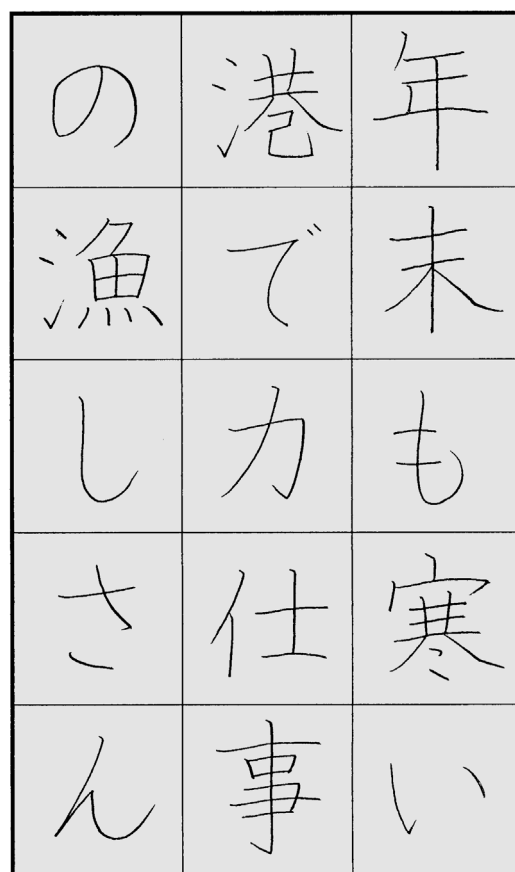
小 三 年

準初段以上

〈用具〉自由(黒色に限る)

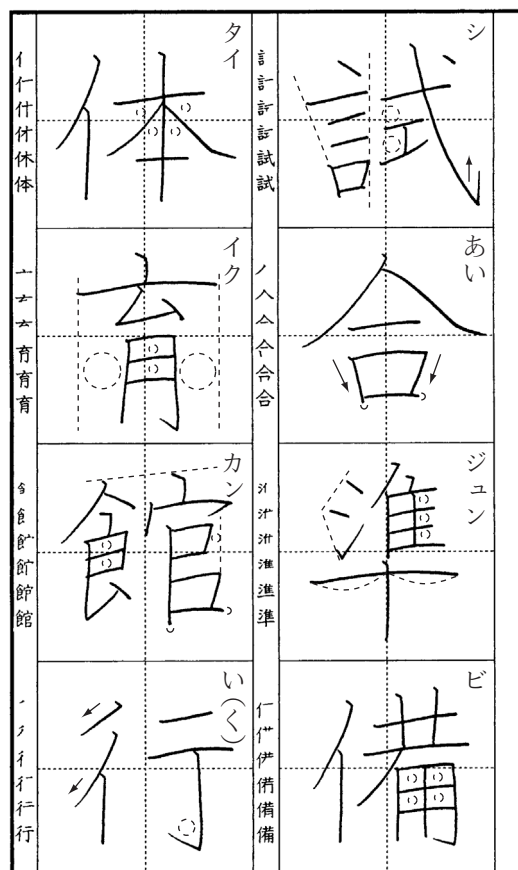


新入1級



小四年

準初段以上



解説(よく見て習いましょう)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。



小五年

(全員)

小四以上 尾郷翠光書

〈ようぐ〉自由(黒色に限る)

牛	早
乳	朝
配	散
達	歩

解説(よく見て習いましょう)

小六年

牛	で	早
乳	見	朝
配	か	の
達	け	散
員	た	歩

(全員)

◎お手本は、15マスはつけペン、8マスはデスクペンで書きました。

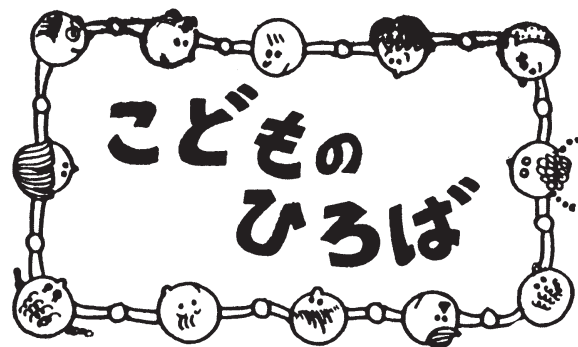
の	書	蛍
広	か	光
告	れ	塗
看	た	料
板	店	で

中二・三年(楷書)

中一年(楷書)

し	便	年
く	番	賀
書	号	状
こ	を	は
う	正	郵

▼小三年以下の課題 はやし 林 せい 成 か 香 書



しめきり 12月21日(必着)

習っていない漢字は、
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 ふる 古 かわ 川 きょう 京 か 佳 書

元 がん				賀 が
	申 もう	ご	本 ほん	
旦 たん	し	指 し	年 ねん	正 しょう
	上 あ	導 どう	も	
氏 し	げ	を	ろ	
	ま	お	し	
	す	願 ねが	く	
名 めい		い		

◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。

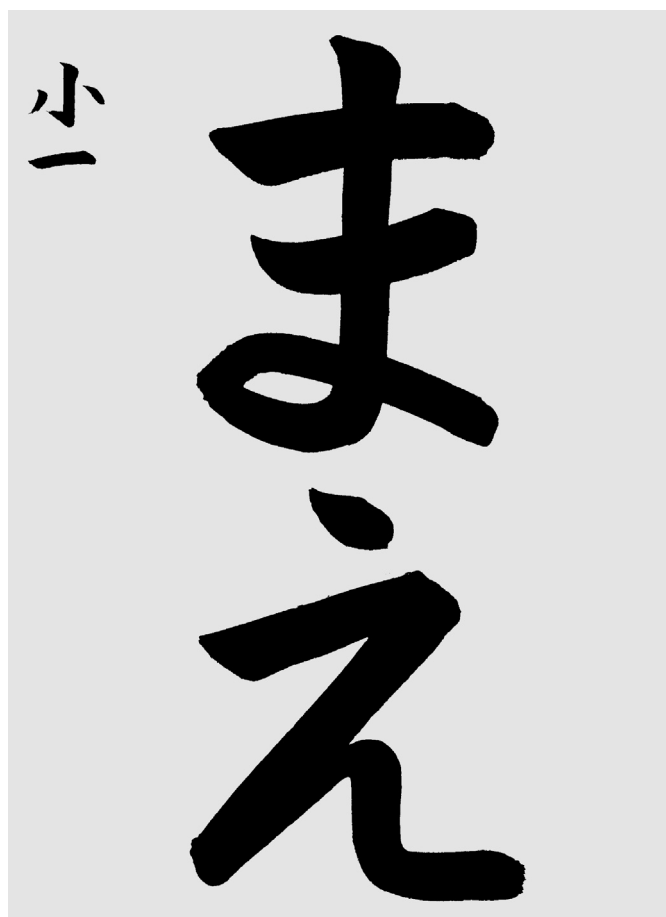
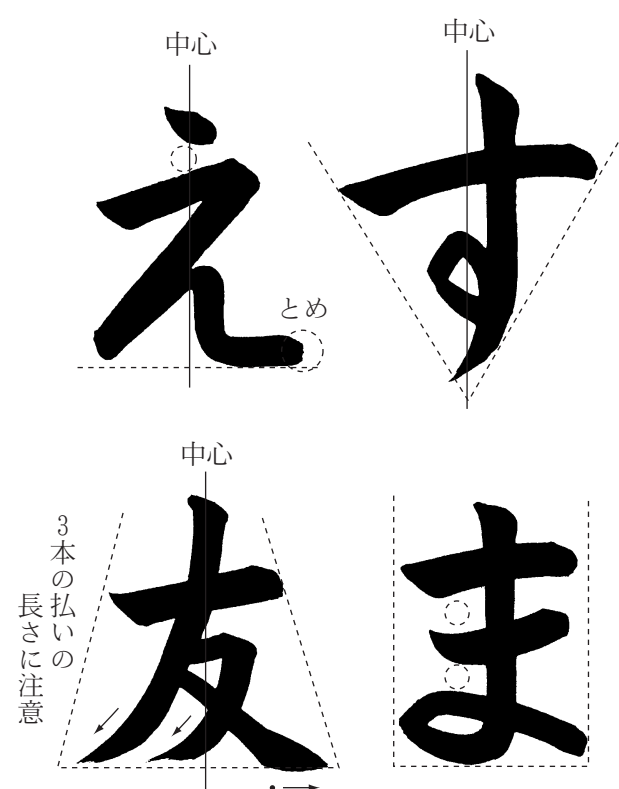
※今年・一日＝単語としてこのように読みます。

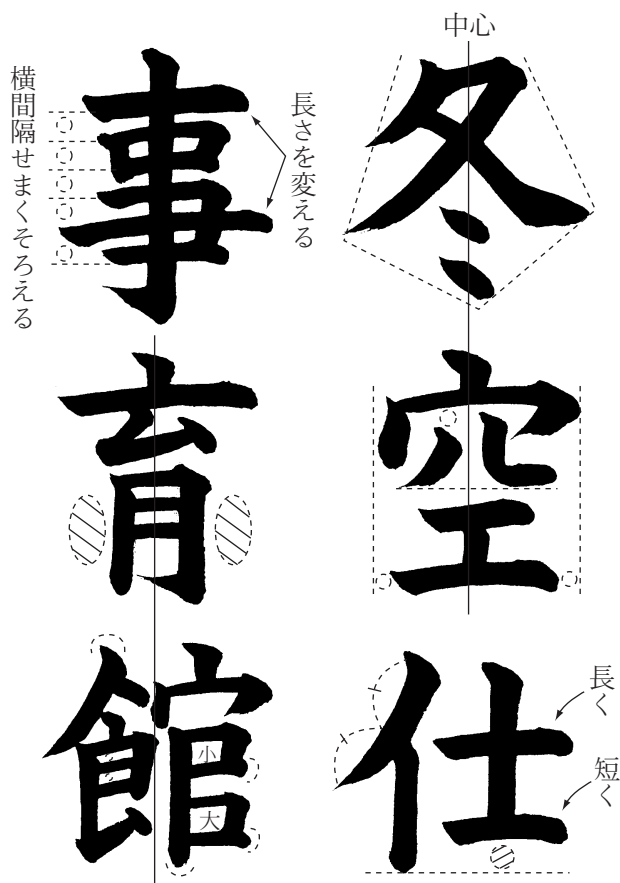
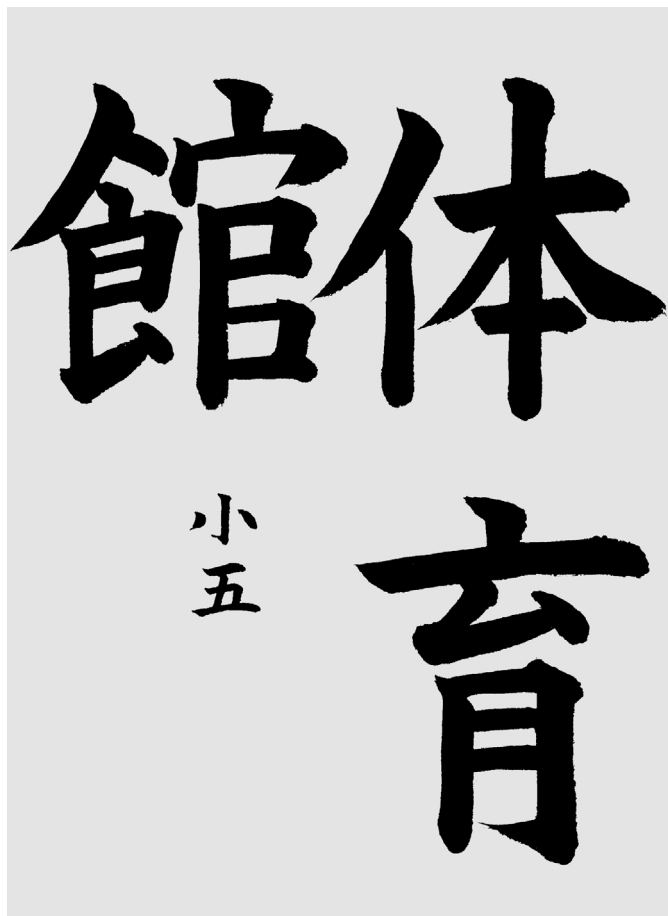
◎お手本はえんぴつ使用

一 いち			お	明 あ
月 がつ	遊 あそ	今 こ	め	け
一 いつ	ぼ	年 とし	で	ま
日 たち	う	も	と	し
	ね	い	う	て
名 な		っ		
ま		ぱ		
え		い		



幼年／小二年
玉樹小
華書





小三 小五年

水野の香竹書

中
二
三

看 広
板 告

小六・中二・三年

奥村暢之書

小
六

散 朝
歩 の

便 散
看 歩
板 郵

中
一

番 郵
号 便